2018 年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	准教授	上田 裕司
最終学歴	学 位	専門分野
兵庫教育大学大学院 学校教育研究科	修士 (学校教育学)	保健体育科教育学

I 教育活動

○目標・計画

(目標)

建学の精神である「真に信頼して事を任せうる人格の育成」を基盤に、人間の健康に関わる諸問題、また、昨今の激変する学校現場に求められる教員を一人でも多く養成する。

(計画)

- ・教職科目である「保健体育科教育法Ⅱ」の授業において良質の授業づくりは、きちっとした「学習指導案」の作成が必須であること。また、指導案作成から模擬授業に発展させ、その活動を通じて保健授業の指導の在り方・考え方の理解を目指す。上記に関連して「教育実習研究」の授業においても良好な態度で実習に臨めるように、私が経験してきた学校現場の状況を反映させながら、教師として求められる資質・能力の理解を図る。同時に、実習中における研究授業実施の際に作成する「学習指導案細案」に求められる必須事項（「教材観・生徒観・指導観」・「単元の評価計画と評価規準」など）を「記す意味」の理解を図るとともに、「記し方」を身に付けさせる。
- ・「生徒指導論」と「特別活動研究」においては、私の学校現場での経験に基づき、様々な事例を基に時代に適う「生徒指導の在り方」を探求する。特別活動研究においては新学習指導要領の内容を踏まえ、演習などを用いて実際の指導の在り方を学ばせる。
- ・「基礎演習」においては、個の個性の伸長を図るために、学生が提出したレポートの添削と必要に応じて面談を施す。
- ・「総合演習」では、「オンリーワンを、一人にひとつ」をコンセプトとして健康教育プログラムを用いながら、ライフスキルを向上させることから自尊感情（セルフエスティーム）の構築を目指す。

○担当科目（前期・後期）

（前期）健康・スポーツ実習、教育実習研究、生徒・進路指導論、基礎演習Ⅰ、総合演習Ⅰ、教育実習Ⅰ

（後期）保健体育教育法Ⅱ、特別活動研究、スポーツ実習、学校保健、基礎演習Ⅱ、総合演習Ⅱ、教育実習研究、教育実習Ⅰ

○教育方法の実践

- ・保健体育教育法Ⅱでは、受講学生全員に学習指導案の作成を求め、その指導案に基づいて模擬授業実践に発展させる活動を行った。その際、リフレクションカードを用いて学生が行う模擬授業での「教師行動」「授業展開」など全7項目の客観的記述から「優れた授業」とは何かについて検討させ、各学生の模擬授業実践での課題及び授業観の変容についてまとめさせ授業力の向上を目指した取組を行った。
- ・特別活動研究においては、学級活動の模擬授業についてテーマを選び、模擬授業後にグループ

でブレインストーミングを行い、当該模擬授業の有効性を検証する取組を行った。

- ・総合演習では前期、後期とも健康教育に関する6つの危険行動からテーマを選択させレポート作成を行った。

○作成した教科書・教材

- ・生徒・進路指導論（前期）は、担当した後半7回分のスライド（約140枚）を作成するとともにスライドに準拠したワークシートの作成を行った。
- ・保健体育教育法、特別活動研究に、学校保健などにおいてはスライドおよびスライドに準拠したワークシートの作成
- ・総合演習Ⅰ・Ⅱでは、活動シートの作成を行った。

○自己評価

本学の学生によるアンケートからの評価では、前期の教育実習研究の平均値4.6、生徒進路指導論の平均値4.3、後期の保健体育教育法の平均値4.3、特別活動研究4.1、スポーツ実習の平均値4.2であり、概ね授業の目的を果たすことができたと考えられる。特に、担当している教科が教職免許の取得に関わる教科であるということ、また、少人数（18名）の授業であることから学生の理解度を確認しながら進める授業の展開を今後も実践することが大切であると考えている。

Ⅱ 研究活動

○研究課題

- ・中学校教員の喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の指導に対する意識と関連要因—学校保健の推進のための方策の検討—
- ・学習指導要領による「健康と環境」の学習の授業実践研究

○目標・計画

（目標）

《中学校教員の喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の指導に対する意識と関連要因》

近年、我が国の青少年の抱える健康課題が多様化、深刻化する中で、未成年者による喫煙、飲酒、及び薬物乱用に関連する危険ドラッグの使用は大きな社会問題である。このため学校教育のさらなる充実強化が求められている。本研究では、中学校教員の薬物乱用防止教育に対する意識及び喫煙、飲酒、薬物に関する主な指導内容の認知、また、教員が求める研修会（喫煙・飲酒・薬物に関連する内容）等の実態を把握し、防止教育の充実と推進に関わる方策の検討を行う。

《学習指導要領による「健康と環境」の学習の授業実践研究》

近年の社会環境や家庭環境の急激な変化に伴い、児童・生徒の健康課題は多様化してきている。学校教育においては、児童・生徒が生涯に通じて健康な生活を送ることができるように指導することは究めて重要である。そのため保健授業で獲得した正しい知識と、知識を行動に結びつける力を育成することが必要である。本研究では、学習指導要領に示された内容に準拠し「健康と環境」について授業実践を行ない教育上の効果について検討する。

（計画）

《中学校教員の喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育の指導に対する意識と関連要因》

K市、約650人を対象にした質問紙調査から関連要因を探る

《学習指導要領による「健康と環境」の学習の授業実践研究》

準実験モデルを用いて、K市、二校の中学生による授業実践前後に質問紙調査を実施し、授業介入群と実験群との比較から授業の効果評価を行う。

○2011年4月から2019年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・榎本智司，石鍋浩，上田裕司他 「中学校全面実施につながる移行措置実践ガイド」 第3章：新学習指導要領を生かした保健体育科〈保健〉の授業例，pp. 82 - 83. 教育開発研究所 2018年.
- ・入谷仁士，上田裕司，萩原芳彦，笠原賀子，鬼頭英明，黒川修行，西端充志，真下真澄新.『新中学保健体育 教師用指導書 「教授ノート保健Ⅲ」 第4章 pp. 88-91, pp94-98. 株式会社 学研教育みらい 2015年.
- ・荒木田美香子，井戸晶子，石坂友司，井上明子，入谷仁士，上田裕司他 24名.『新・中学保健 体育「新・中学保健体育 教師用 指導書」 朱書き編』 第4章 pp118-119, pp120-121. 株式会社 学 研教育みらい 2015.
- ・入谷仁士，上田裕司，萩原芳彦，笠原賀子，鬼頭英明，黒川修行，西端充志，真下真澄.「新・中学保健体育の研究 研究編保健Ⅲ」 第4章 pp130-137, pp138-145. 株式会社 学研教育みらい 2015年.
- ・上田裕司，岡田秀明，鬼頭英明，木全勝彦，佐藤朱美，平 武史，長岡佳孝.「学校環境衛生活動を生かした保健教育 ー小・中・高等学校で役立つ実践事例集ー」 第3章，pp. 26-40 第4章 pp. 69-73. (公財) 日本学校保健会 2014年
- ・上田裕司，加藤哲太，鬼頭英明，田中俊昭，富岡 剛，橋本卓爾，望月真弓，山下和美.「自信をもって取り組める医薬品の教育 ー小・中・高等学校での実践事例集ー」 第1章 p4, 第2章 pp8-18 第3章 pp61. (公財) 日本学校保健会 2012年.

（学術論文）

- ・上田裕司，西岡伸紀.「中学校教員の薬物乱用防止教育に対する意識の実態把握及び関連要因」 兵庫教育大学と大学院同窓会との共同論文集 第7号 pp23-29 2017年
- ・鈴木千春，上田裕司，香田由美，永田智子，鬼頭英明.「中学校保健分野の医薬品の学習におけるデジタル絵本教材活用の効果」 兵庫教育大学学校教育学研究 第29巻 pp51-58. 2016年. (査読あり)
- ・上田裕司，清水貴幸，鬼頭英明，西岡伸紀.「中学校保健学習の準備，生徒の反応，使用指導方法等に関する保健体育科教員の意識 ー質問紙調査の小単元別の分析からー」 学校保健研究 第57巻5号 pp. 227-237 . 2015年 (査読あり)
- ・上田裕司.「学習指導要領による中学校・高等学校の医薬品の学習」 学校保健研究 第57巻5号 pp. 409-411. 2015年 (査読あり)
- ・上田裕司，富岡 剛，鬼頭英明，西岡伸紀.「中学校学習指導要領による医薬品に関する授業実践研究」 学校保健研究第56巻6号 pp. 220-227 2013年. (査読あり)
- ・上田裕司，西岡伸紀，鬼頭英明「中学校保健体育科教員の各小単元に関する意識の調査」 兵庫教育大学 学校教育コミュニティ 第3号 pp. 53-58 2013年.
- ・富岡剛，上田裕司，鬼頭英明，西岡伸紀.『『新高等学校学習指導要領による「科目」保健の医薬品に関する授業実践研究』 教育実践学研究 第13巻 第1・2合併号 2012年. (査読あり)
- ・上田裕司，西岡伸紀，鬼頭英明.「中学校保健体育教員の各小単元に関する意識の調査研究」 兵庫教育大学と大学院同窓会との共同研究論文集 第3号 pp. 29-34 2012年
- ・上田裕司，西岡伸紀，鬼頭英明.「中学校保健体育教員の各小単元に関する意識の調査研究」 兵庫教育大学と大学院同窓会との共同研究論文集 第3号 pp. 29-34 2012年
- ・上田裕司，西岡伸紀，鬼頭英明.「中学校保健教員の保健学習に対する難易意識の把握及び支援方策の検討」 兵庫教育大学と大学院同窓会との共同研究 研究成果報告書 第2号 pp53-58

(学会発表)

- ・山田淳子, 阿倍健太郎, 谷川尚己, 上田裕司. 「小学6年生における人型ロボット (Pepper) を活用した保健学習に関する研究」2018. 京都教育大学 第65回 近畿学校保健学会講演集.
- ・阿倍健太郎, 谷川尚己, 山田淳子, 上田裕司. 「中学3年生における人型ロボット (Pepper) を活用した保健学習に関する研究」2018. 京都教育大学 第65回 近畿学校保健学会講演集.
- ・谷川尚己, 阿倍健太郎, 上島智, 山田淳子, 上田裕司. 「大学教員と学校薬剤師が連携した小学校での保健学習」2018. 京都教育大学 第65回 近畿学校保健学会講演集.
- ・上田裕司, 西岡伸紀, 鬼頭英明. 「中学校教員の薬物乱用防止教育に対する意識」2017. 和歌山県立医科大学 第64回 近畿学校保健学会 講演集
- ・上田裕司, 西岡伸紀, 鬼頭英明. 「中学校保健体育科教員の小单元に対する指導の意識」2014. 関西科学福祉大学 第61回 近畿学校保健学会 講演集・
- ・上田裕司. 「中学校学習指導要領における医薬品に関する授業研究」2013. 兵庫教育大学ハーバランドキャンパス 第60回 近畿学校保健学会 講演集
- ・上田裕司, 鬼頭英明, 西岡伸紀. 「保健学習において使用される指導方法」2013. 兵庫教育大学ハーバランドキャンパス 第60回 近畿学校保健学会 講演集
- ・上田裕司, 西岡伸紀, 鬼頭英明. 「中学校保健学習での指導方法の活用および関連要因」2011. 名古屋大学 第58回 日本学校保健学会 講演集
- ・上田裕司, 鬼頭英明, 西岡伸紀. 「医薬品に関する中学生の意識」2011. 名古屋大学 第58回 日本学校保健学会 講演集

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

○所属学会

日本学校保健学会、日本保健科教育学会、日本教育医学会、東海学校保健学会、近畿学校保健学会 (幹事)

○自己評価

2018年度の研究課題であった「中学校教員の喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育に対する意識と関連要因」の論文投稿が計画通り進まなかった。大学教員として2年目となり大学での学務の様子も分かってきたので2019年度のできるだけ早い時期に投稿する予定である。

III 大学運営

○目標・計画

(目標)

所属する委員会及び大学関連の学内事業を理解して役割を果たす。

(計画)

所属する委員会及び大学関連の学内事業の推進が円滑に運営できるように自己の役割を果たす。

○学内委員等

総務委員会委員、学術情報センター運営委員会委員、中高教職課程委員会委員、教職支援センター運営委員会委員

○自己評価

私の担当教科 (教育実習研究) と関わりの深い中高教職支援委員会の一員として教員採用試の現状について把握することができた。今年度、教育実習に送り出した学生においては、実習後に教員を希望する学生が昨年度より約3倍に増加したことについては、一定の成果が見られたと考え

られる。今後の課題として現役の合格者を出すことができるようにその方策を検討すると同時に、学生への個別指導の在り方について研鑽を積む必要があると思われる。

IV 社会貢献

○目標・計画

(目標)

- ・近畿学校保健学会の幹事として学会活動の運営と推進に協力する。
- ・京都市における「薬物乱用防止教室」の講演講師の経験を生かして愛知県内においても啓発活動を推進する。
- ・教育現場で必須とされている「医薬品の正しい使い方」の指導方法などについて、啓発団体である「くすりの使用適正協議会」からオブザーバーとして依頼を受け、学校教育における望ましい指導の在り方の情報提供と啓発活動を行う。

(計画)

所属する学会及び教育関連の団体と連携し、学校教育における保健科教育全般の推進を行う。

○学会活動等

日本学校保健学会、日本保健科教育学会、日本教育医学会、近畿学校保健学会（幹事）、東海学校保健学会

○地域連携・社会貢献等

- ・薬の適正使用協議会教育部門オブザーバー：2018年
- ・厚生労働省薬物乱用防止教育中堅指導員（2014年から現在に至る）
- ・医薬品に関する教育の実践事例集作成委員会 委員【設置：（公財）日本学校保健会】
- ・学校環境衛生活動実践事例集作成委員会 委員：【設置（公財）日本学校保健会】

○自己評価

近畿学校保健学会において学校保健関連の研究発表の座長を務めた。また、高大連携授業授業では、健康教育の喫緊の課題である「薬物乱用防止教育」を1・2年生対象に指導を行った。その授業では、高校生が真剣に取り組んでいる様子が窺われ、一定の成果を残すことができたと感じている。

V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

特になし

VI 総括

大学教員1年目であったことから、授業準備と授業実践に追われる一年であった。しかし、担当している教職関連の科目においては、学生のアンケートの結果において前・後期とも高い評価を得ることができ、授業に向かう指導者の姿勢が反映されることを実感した。次年度もさらに高い評価が得られるようにさらに教材研究をしっかりと行い実りある授業を行いたい。

一方、研究面では2018年度中に論文投稿を予定していたが実現できなかつたため、次年度の第一番目の自己課題として位置付けた。

以 上